

思春期と親意識に関する諸外国の動向

研究協力者 衛 藤 隆
(国立公衆衛生院母子保健学部)

はじめに

わが国で実施されている思春期におけるふれあい体験学習(以下、「体験学習」)の評価のための背景調査として、諸外国における状況を調査する。

研究方法

文献検索データベースMEDLINEを用い、検索語として思春期、親であること(parenthood)を選び、1989～1994年の6年間を対象として検索した。また、雑誌 Current Contents を用い、親であること(parenthood)を検索語として、1994年9月～1995年3月の6ヵ月間を対象とし、社会科学および行動科学関係の雑誌を検索した。

研究結果

MEDLINEより上記条件にて検索された文献数は1989～1994年の各年でそれぞれ 15, 13, 7, 10, 6, 11 であった。これらの各々について内容を検討

し、大まかに分類した結果を表に示す。

母性、父性を含め「親であること」に取り組んだ内容を有するものは6件で、教育学、心理学的内容のものが多かった。

妊娠、避妊、人工流産、分娩、産褥等、reproductive healthに関する内容を有するものが多かった。また、性感染症(sexually transmitted diseases)やHIVに関連する性行動に関するものも認められた。

教育に関するものも、性教育を中心としていた。

Current Contentsより上記条件で検索された文献数は21件であった。主として心理学関係の雑誌で、親(になること)への移行(the transition to parenthood)について扱ったものが多かった。1件のみ、思春期を対象とし、思春期の妊娠防止対策や親になることについての教育を通じて性による(負担の)偏重を減らすことをテーマとした論文があった

考 察

6年間の検索結果でみる限り、わが国で実施して

文献検索結果

年	1989	1990	1991	1992	1993	1994
検索条件該当件数	15	13	7	10	6	11
親であること	2	0	2	0	0	2
教育に関すること	2	2	0	3	0	0
妊娠に関すること	3	0	3	1	1	0
避妊に関すること	0	1	0	1	1	1
人工流産に関すること	0	1	0	0	1	4
分娩に関すること	0	0	0	1	0	0
産褥に関すること	0	0	0	0	0	1
心理に関すること	1	1	0	1	0	1
家族に関すること	0	2	0	1	0	0
虐待(夫→妻)	1	0	1	0	0	0
STD/HIVに関連する性行動	2	1	0	1	2	0
不明	0	0	0	0	0	2
その他	4	5	1	1	1	0
key words:	adolescence + parenthood					

いる体験学習に相当する活動については認めることができなかつた。検索の結果、選びだされた文献の研究対象の場となっている国は、米国と欧州諸国が大半を占めたが、いずれの国々においても、若年妊娠の取り扱いに関するものが多い印象を受けた。すなわち、10代で親となった若者における親意識の形成やそれに関連する教育的活動などについて述べたものが多かつた。

このほか、夫の妻に対する虐待がテーマとして散見された。

諸外国における体験学習類似の活動の有無を調査するには、思春期保健活動を担当する機関や団体をリストアップし、それらを対象に調査することが必要であろう。今回は時間の制約があり、このような調査を実施することはできなかつた。

まとめ

諸外国における思春期と親意識に関する状況を調査するため、文献検索データベースMEDLINEおよび抄録雑誌Current Contentsを用い、前者については1989～1994年の6年間を対象として思春期および親であることについて検索し、後者については最近6ヵ月間について親であることについて検索した。欧米諸国では若年妊娠の結果、若くして親となった男女に対する対策として問題が立てられている傾向がうかがえ、内容としては生殖保健に関するものが多かつた。今回の検索からは、諸外国において、わが国で実施している「思春期における保健・福祉体験学習事業」に相当する、あるいは類似する、あるいは類似する事業があるかどうかについては、明確な情報を得ることができなかつた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

わが国で実施されている思春期におけるふれあい体験学習(以下、「体験学習」)の評価のための背景調査として、諸外国における状況を調査する。